

# 1000人超の演奏に魅せられて

文&写真 音楽研究会混声合唱団広報部 名波友里亜(文学部4年)



「この響きを共有したい!」

当時1年生だった私の原動力はここから生まれた。中央大学音楽研究会混声合唱団に入部したころから疑問を抱えていた。

<プロのオーケストラやソリスト(歌手)と共演している大学の合唱団はほとんどないのに、どうしてこんなに知名度が低いのだろう。すごいことをしているのに、みんなに知られていないのは、もったいない>

ステージには指揮者をはじめ、合唱団部員80人超、オーケストラ、ソリストら、およそ100人が立つ。私たちは観客の心に届けと合唱し、演奏する。

この存在をまずは身内から知ってもらおうと行動した。知らせるには、自らが体験しなければならない。困ったことに未知の会場があった。

2011年9月の定期演奏会(定演)は東京カテドラル聖マリア大聖堂=写真=で、バッハのロ短調ミサを演奏した。9月の定演は原則として1年生は出演しない。そのため演奏会の良さを伝えようとしても、1年生の私にはわからなかった。

どのような場所で演奏会が行われるのか見てみようと思い、会場となる教会で毎週行われているミサに出席した。カテドラルは天井が十字架になっている。全体的に青い色をしていて、荘厳な雰囲気の中、ミサは行われた。

キリスト教徒ではないが、信者と一緒の説教を聴き、讃美歌を歌った。残響時間が7秒あるため、皆で歌った讃美歌は会場

いっぱいに鳴り響いた。

このような美しい会場で、先輩たちは合唱をするのかと思うと身震いがした。こんな感覚は初めてだった。この体験もぜひ多くの人たちにしてもらいたい、と強く思った。

中大の父母会総会が学内で開かれると聞くと、合唱団のポスターを手に単身で会場へ出向き、あの感動を伝えた。

自分が体験したことを共有したい気持ちでいっぱいだった。上手とはいえなかったが、懸命に説明した。共感してくださったのか、15人もの父母がチケットを買ってくださった。

その後、12月の当合唱団創立60周年演奏会『メサイア(モーツァルト編曲版ドイツ語)』では、中大白門会の方々にも呼びかけた。白門会のホームページに掲載されている電話番号にかけては「ぜひ演奏会に一度来てください」とPRした。これを何回も続けた。

父母会や白門会の皆さんは、後輩が頑張っているからと非常に親身になって応援してくださる方ばかり。おかげさまで、今まで中大混声のことをほとんど知らなかった方々も演奏会においでくださった。

昨年12月21日の『メサイア演奏会』は最大定員1190席の大ホールが満員となった。熱気で一体となった会場。「共有したい」との願いが叶った日。

お客さまからの鳴りやまない拍手に、しばらくは感慨にひたって、何も言えなかった。